

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫

肢体不自由教育においては、これまでも障害特性からICT機器を活用した教育活動が展開されてきました。GIGAスクール構想が進む中、あらためて各教科の特質や学習指導要領に示されている資質・能力、自立活動の理念等を踏まえてICT機器を活用することの意義を踏まえ、授業実践や校内体制の整備などに取り組んでいる事例を収集しています。現在、各事例の概要をまとめた資料（仮称：NISE RESEARCH SNAPSHOT）を作成し、研究所Webサイトでの公開に向けて準備を進めています。

<ご紹介予定の実践>

- 「一人一台のGIGAスクール端末を活用した肢体不自由児童に対する算数科授業実践」（角や計算）
- 「自発的なICT機器の活用のための環境整備と指導方法の工夫」
～「自分から使おうと思いつき、使い始める」ために～
- 「ノートアプリを活用しての読みやすい回答を作成するための指導」
～学習の経験不足を補い、学習を自立させるためのタブレット型端末活用～
- 「タブレット端末（iPad）を使用した朝の会の司会」
- 「視線入力装置を活用した、具体的操作を伴う『量の概念』を豊かにする学習活動」
～小さい円の直径を基準にして大きい円の直径を「いくつ分」で表そう～
- 「子ども・保護者・教職員が体験しながらICT活用のスキルを身に付けていく取組」 など

★令和5・6年度は、本研究活動をさらに拡充させて、「障害種別特定研究」という位置付けで研究活動を展開させていきます。今後、教育委員会を通じて研究協力校を公募する予定となっております。